



令和 4 年 1 2 月 5 日  
令和 4 年度学校だより NO.44①  
加古川市立平荘小学校

### 狂言発表会リハーサル（6年生）

12月5日（月）は、狂言発表会のリハーサルの日です。6年生は、今まで山口先生に4回ご指導をいただきました。その度ごとに、6年生の子どもたちは、真摯に取り組み、チームとして演目を仕上げてきました。

6年生の子どもたちの狂言に対する熱意がどんどん伝わってきます。皆様、狂言発表会当日を、ぜひ楽しみにしてください。



### 《11月28日（月）の狂言の稽古より》



#### 《『猿唄』の稽古より》

全部が同じ調子だとおもしろくありません。「猿が参りて・・・」もう少し、強さがほしいです。半分ことばで言うような感じで表現します。最後の語尾を少し上げると、陽気になってきます。

『猿唄』を聞いていると、そつなく無難に聞こえます。ドキッとするとところがほしいです。観客の心をわしづかみにするような！

稽古してください。動きは、全て誰かに観られていると意識をしましょう。観られていると意識すると、緊張します。その緊張の中に身を置くことによって、どういう気持ちになるかを体験してほしいです。しんどいことですが、時間にして5分間ぐらいです。

指先の一本一本まで観られていることを意識してやりましょう。

### 《『附子』チームの稽古より》



「るす」と「ぶす」、一つ一つ説明するようにセリフを言いましょう。



工夫が見えます。3人がものすごく稽古しているのが見えました。さらに良くなるためには、もう少しことばに表現をのせるといいです。説明するようなセリフがほしいですね。



舞台では、橋掛かりの柱を境界とします。柱を境に、安全地帯と危険地帯に分けます。



「附子」を見た瞬間に、「そりゃ退け、そりゃ退け」と言います。

次郎冠者が太郎冠者を説得しようとしているのが伝わってきます。



なかなかおもしろく仕上げてきています。リズム感とテンポをもって表現します。「離せというに」「ならぬというに」を同じテンポで返すことで、リズムが生まれてきます。次郎冠者は太郎冠者のことばを受けて話します。2人でリズムを作っていくことがポイントです。

附子の入れ物の中へ扇を入れる場面では、砂糖がどこまで入っているかを扇の位置で表現します。扇がだんだん底につくようにします。最後は、砂糖をこそげとる様子を音を立てて表現してもいいです。



《山口先生から問題提起です》

セリフに感情（怒っている・楽しんでいる等々）をのせましょう。工夫をするとリズムが生まれます。

狂言は、「これで完成」というのはありません。今年の『附子』と20年前の『附子』は違います。生活経験が違うからです。時代と共に変化していくのです。

6年生のみなさん、守りの姿勢に入ってはいけません。もっと先へ先へ進もうとしましょう。そうすることで、もっとおもしろくなります。

子どもたちは、熱心に稽古に励み、日に日にレベルアップをしています。自分の前の場面から自分の後の場面へとつながられるように意識しながら演じられるようになりました。そして、観客を意識しながら演じる稽古をしています。頑張っています。